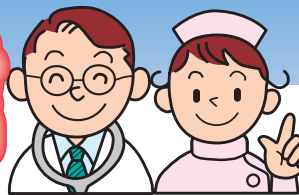


# にっせき ぬくもり通信

http://www.matsuyama.jrc.or.jp/

Vol.28  
2012年4月1日



編集・発行／松山赤十字病院  
〒790-8524 松山市文京町1番地  
TEL 089-924-1111 FAX 089-922-6892

《基本理念》人道・博愛・奉仕の赤十字精神に基づき、医療を通じて、地域社会に貢献します。

## 『妊娠中からの育児支援で、育児不安の軽減そして虐待予防を！』



成育医療センター周産期部門  
**横山 幹文**

最近の新聞報道で、児童虐待に関連したニュースを1ヶ月以上みないことはないように思います。その報道を知る度に、その虐待された子どもさんを思うと、やり場のない悲しみを感じるの私だけではないと思います。

私は松山市が行う要保護児童対策地域協議会という虐待防止を目的とした会で産婦人科医として委員を務

めています。その中で松山市子育て支援室を中心とした、現場の関係者のたゆまぬ御努力により、松山市では新聞報道されるような虐待死はありません。しかしながら、驚くべきことにその水面下では虐待死に至ることが大変懸念されるケースが数多く挙げられています。

図1に示したように愛媛県での虐待相談件数は増加の一途を辿っています。また虐待された子ども達の年齢は小学生をピークとして五歳以下の児童が117件で37.5%を占めています。ここで驚くべきことは、生まれたばかりの2歳までの乳幼児が15.4%を占めていることです(図2)。さらにその子どもたちを虐待しているのは実母(61.5%)と実父(24.7%)であることです(図3)。

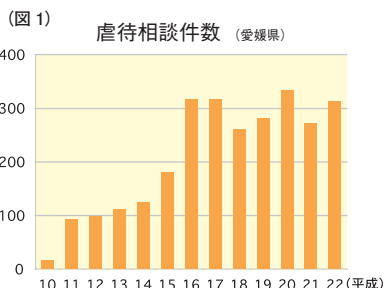


図2 被虐待児の年齢分布 (愛媛県/平成22年度)

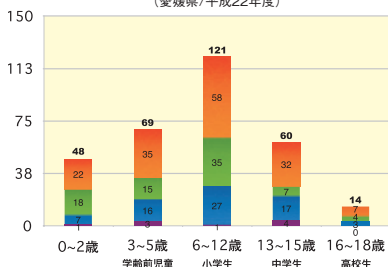
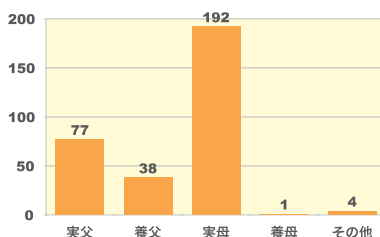


図3 主な虐待者 (平成22年度)



このような悲しい事実を知り、特に出生直後からの虐待が多いことに心を痛めている産婦人科関係者は私ばかりではないと思います。そこで松山赤十字病院成育医療センター周産期部門では、妊娠中からの育児支援で少しでも育児不安を軽減し、ひいては虐待予防につなげていきたいとの思いから、いくつかの支援システムを運用しています。

ハローママ・ハローベビーカードはその一つのシステムです。当部門ではすべての妊婦さんに、写真1のようなカードを持っていただき、不安なことがあれば24時間いつでも電話して頂いています。そこで助産師がお話をうかがい適切なアドバイスをしています。このことでその場の不安が少しでも軽減されれば幸いです。



(写真1)

もう一つは傾聴ボランティアによるマタニティーサポートです。傾聴ボランティアとは聞き慣れない言葉と思われるかもしれませんが、傾聴という、心理学に基づいたカウンセリングスキルを学ばれた院内ボランティアの方々です。このマタニティーサポートの目的は育児支援と虐待予防にあります。妊娠中から出産後を通じて、育児不安のあるお母さんやその家族の方々に傾聴を行い、院内院外の様々な施設(松山市子育て支援課、児童相談所、保健センターなど)に必要な情報提供や連携を行うものである。院内のみの連携ではなく、院外への地域連携により問題を解決していくことを目指しています。

妊娠中からさまざまな育児不安を解決していくことで、将来の虐待発生を予防していきたいと考えています。いつでもご相談頂ければ幸いです。



## 平成24年度松山赤十字病院 がんサロン「クロス・ステーション」の開催日時のご案内

がん診療推進室（室長）副院長 藤井 元広

松山赤十字病院は、がん診療連携拠点病院として質の高いがん医療を提供するために、がん診療と緩和医療の充実・強化に取り組んでいます。その一環としてがん患者・家族の皆様が、病気や生活など気になること、相談したいことなどなんでも話せる場として、院内にがんサロン「クロス・ステーション」を開設しました。

がんサロンの名称「クロス・ステーション」は、赤十字のレッドクロスと人が行き交いほっとする場のステーションを組み合わせました。「クロス・ステーション」ではテーマを決めて、がんに向き合う人びとが集まり、語り合い、共に生きることを目指します。またこのサロンは、学びの場としてミニレクチャーを取り入れ、語り合いの場としてがん患者、ご家族の方、ピアサポーター（患者・家族経験者；愛媛県の養成研修の終了者）、当院の医療従事者とともに一緒に学習や交流をはかっていきたいと思えます。

平成24年度がんサロン「クロス・ステーション」の開催日時は、毎月第4月曜日です（松山赤十字病院 1号館4階：14:00～15:30、パンフレット参照）。



## 東日本大震災復興支援俳句 入選作品

東日本大震災復興支援行事の一環として募集しました「東日本大震災復興支援俳句」に追悼、励ましのお気持ちがこもった120句が寄せられました。ご投句いただいた皆さまに改めて感謝申し上げます。厳正なる審査の結果、入選作品10句（うち特選3句）を下記のとおり選出しました。

### 特選作品

東北にまずかかりたる春の虹 松山市 小西 昭夫 様

【評】春の虹は、立春を過ぎてから出る虹。夏の虹よりも淡いが、春の到来を感じる豊かさがある。虹は、いつもふいに出る。未来からエールをもらったような気分になり、仰ぎ見る誰の顔にも笑顔がこぼれる。まず東北の空に多くの虹がかかって欲しいと願う。

来ませし小鳥となりて山茶花に 松山市 松田 豊 様

【評】大切な人が、姿を変えて会いに来たのだろうか。山茶花は季節を違えずに咲き、小鳥たちもまた同じ季節にやって来る。小鳥や山茶花を見る眼差しに、繰り返し巡り来る自然への感謝と、生きている者への深い慈しみが感じられる。

桜舞ふ浜に祈りの深きかな 松山市 毬 様

【評】風に吹かれて桜の花びらが舞う美しさ。目の前には青い静かな海が広がっている。未曾有の大震災から一年がたった。その爪痕は大きく深い。豊かに咲きそろった桜は、悲しみをいくらかでも癒してくれるに違いない。今年の桜には、深い祈りが宿っている。

### 入選作品

もうそこに笑顔の桜は息吹いてる 松山市 たまお 様

桜風よ博愛運べ陸奥へ 松山市 渡邊八重子 様

裏道も瓦礫置場も春が来る 松山市 岡本 亜蘇 様

ふっこうは必ずするよがんばって 広島市 かなつぴ 様（10歳）

水仙の瓦礫の中で凛と咲き 砥部町 原田久美子 様

桜咲く東北の地に笑顔咲く 砥部町 トミ一 様

はるのかぜさみしいきもちとんでゆけ 松山市 こんどうこうた 様（7歳）

日本赤十字社は東日本大震災の救護活動に引き続き、今後も復興支援を継続してまいります。

## ■当院携帯サイトをご覧ください

右のQRコード（二次元バーコード）を取り込むことにより、当院携帯サイトにアクセスできます。

- アクセス
- 外来診療のご案内
- 救急のご案内
- お見舞いのご案内
- 職員募集情報

